

若手の会シンポジウム

SDGs を目指したマリンバイオテクノロジー研究

5月16日（日） 14:30～16:00 オンラインルーム2

企画責任者：鈴木道生（東大院農）

坪内 泰志（大阪市大院医）

20世紀は大量生産、大量消費による社会の成長が求められ、いかに効率よく大量に「モノ」を作るかが重要であった。21世紀になり、人類社会の消費は地球環境を変動させるまで肥大化したため、人類が永続的に生存するためには現在の生態系を維持し、環境を保護する必要性が出てきた。しかしながら、発展途上国と先進国間に存在する社会的・経済的状況の相違を踏まえて、世界全体としての社会発展と環境保護の両立を目指さなければならない。そのような中、2015年9月の国連サミットで持続可能な開発目標（SDGs：Sustainable Development Goals）が採択され、2030年までに持続可能でよりよい世界を目指す国際目標が掲げられた。SDGsは17のゴール・169のターゲットから構成され、地球上の「誰一人取り残さない」ことが誓われている。17のゴールにはクリーンエネルギー、気候変動、海の豊かさの保護など、マリンバイオテクノロジー分野に関連したものが少なくなく、海に囲まれた海洋国家である日本が果たすべき役割は非常に大きいと言える。

そこで、3名の若手研究者にSDGsに関連する研究を紹介してもらい、マリンバイオテクノロジー分野がどのように貢献可能なのか、その展望を講演して頂く。

プログラム

14:30～14:35 趣旨説明

鈴木道生（東大院農）

14:35～15:00 持続可能な海洋資源保全に向けたスジアラ養殖

○馬久地みゆき（水産研究・教育機構）

15:00～15:25 得意技の異分野応用による新たな研究領域開拓：地球化学的手法によるSDGsへの貢献

○白井厚太郎（東大大気海洋研究所）

15:25～15:50 海洋性放線菌に見出した新規ペプチド環化酵素ファミリーの機能解析と応用可能性

○松田研一（北大院薬）

15:50～16:00 総合討論・質疑応答

鈴木道生（東大院農）、坪内泰志（大阪市大院医）